

平成 23 年度学術情報委員会活動報告

I. 会議等の開催状況

- ・第 1 回学術情報委員会（平成 23 年 8 月 1 日開催）
 1. 今年度の活動方針及び重点事項について
 - (1) 電子環境下における新たな学術情報システムに向けた検討について
 - (2) 国際 ILL (GIF (Global ILL Framework)) について
 - (3) 学術情報の利用促進と保存
 2. 小委員会及びプロジェクトチームの設置について
 3. 電子環境下における今後の学術情報システムについて（中間報告）について
 4. 国立大学図書館協会シンポジウム「電子書籍と大学図書館」について
- ・第 2 回学術情報委員会（平成 23 年 10 月 28 日開催）
 1. 電子環境下の学術情報システムの検討について
 2. 国立大学図書館協会シンポジウム「電子ブックと大学図書館」の開催について
 3. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム委員と課題について
- ・第 3 回学術情報委員会（平成 24 年 5 月 18 日開催）
 1. 理事会への委員会活動報告について
 2. 学術情報の利用促進と保存について
 3. 学術情報委員会の今後の活動課題について

II. 活動内容

1. 学術情報委員会の活動について

今年度は、①「電子環境下における新たな学術情報システムの検討」、②「国際 ILL (GIF(Global ILL Framework))」、③「学術情報の利用促進と保存」の 3 点を中心に取り組むこととした。

電子環境下における新たな学術情報システムの検討に関しては、学術情報システム検討小委員会を設置し、報告書『電子環境下における今後の学術情報に向けて』を平成 23 年 11 月にとりまとめ、12 月 1 日に開催された秋季理事会で配布した。また、12 月 8 日開催された国公立大学図書館協力委員会で国立大学図書館協会から報告し、常任幹事館で検討することとした。なお、本報告書に関連して坂内国立情報学研究所所長と松浦学術情報委員会委員長が平成 24 年 3 月に懇談を行った。

国際 ILL (GIF(Global ILL Framework))に関しては、「GIF プロジェクトチーム」を設置し、GIF プロジェクトの運用体制の再整備と同プロジェクトの業務的位置づけの確認、担当者の継続的な業務スキルの向上に取り組んだ。

学術情報の利用促進の保存に関しては、「学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム」を設置し、学術情報を発見し利用を促進するためのツールの導入、電子情報資源の保存を担保するための仕組み等について検討を行った。

なお、学術情報委員会が中心となって平成 23 年度国立大学図書館協会シンポジウム「電

子書籍と大学図書館」を平成 23 年 11 月 25 日に京都大学で開催し、57 大学から 120 名が参加した。

2. 学術情報システム小委員会の活動について

平成 23 年 9 月 1 日と 9 月 16 日に小委員会を開催し、報告書『電子環境下における今後の学術情報に向けて』をとりまとめ、10 月 28 日に開催された平成 23 年度第 2 回委員会に提出した。第 2 回委員会での協議の結果、内容を一部修正し、12 月 1 日に広島大学で開催された秋季理事会に学術情報委員会から報告書を提出することとした。

3. GIF プロジェクトチームの活動について

1) 今年度の活動

- ・GIF プロジェクトの円滑な運用を進めるため、相手国対応機関との連携のもとに、参加館担当者の種々のサポートを行った。また、国公私立大学図書館協力委員会における同プロジェクトの位置づけについて再確認を行った。

2) GIF プロジェクト活動報告

(1) 日米 ILL/DD プロジェクト

① GIF プロジェクト参加状況

参加機関数は、平成 24 年 3 月 31 日現在、日本側 163、米国側 86 であり、平成 23 年 10 月以降、日本側で 4 館、米国側で 3 館の増加である。

② 現物貸借サービス参加状況

参加機関数は、上記同日現在、日本側 89、北米側 46 であり、平成 23 年 10 月以降、日本側で 3 館の増加、北米側は変動なしの状況である。

③ 日米 ILL/DD 実施状況

平成 23 年度の日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。前年に比べ、依頼件数で 485 件増、受付件数で 141 件増、ピーク時の平成 19～20 年度の水準を回復した。日本側受付分の謝絶率は 63.3%である。(72.0% (19 年度) →71.9% (20 年度) →67.9% (21 年度) →67.6% (22 年度))。一方、日本側依頼分の謝絶率は 37.5%である。(53.8% (19 年度) →44.6% (20 年度) →49.1% (21 年度) →45.6% (22 年度))

表 1 日米 ILL/DD 実施状況 (平成 23 年度)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	1,047	611	0	1,658	443	538	0	981
現物貸借	263	175	0	438	241	641	0	882
合計	1,310	786	0	2,096	684	1,179	0	1,863

(2) 日韓 ILL/DD プロジェクト

① 参加状況

参加機関数は、平成 24 年 3 月 31 日現在、日本側 115、韓国側 299 館となっている。平成 23 年 10 月以降、日本側では変動なし、韓国側で 3 館の増加である。

② 日韓 ILL/DD 実施状況

平成 23 年度の実施状況は、表 2 のとおりである。前年に比べ、依頼件数は 23 件減、平成 21 年度に続き減少した。受付件数は 387 件の増加である。謝絶率は依頼分が 15.9%、昨年度 (29.1%) に比して順調に処理されていると言える。受付分においては 33.2%で昨年度 (32.1%) と同程度となっている。韓国からの依頼件数が増加の一途を辿り、日本からの依頼件数を大きく上回る状況が続いている。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況 (平成 23 年度)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	53	10	0	63	2,214	1,099	0	3,313

(3) 今後の課題

- ① GIF プロジェクトの運用体制の再整備
- ② GIF プロジェクトにおける業務的位置づけの確認と担当者の継続的な業務スキルの向上

4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチームの活動について

電子ジャーナルや電子書籍等の電子情報資源の急速な普及に伴い、従来のツールでは冊子体と電子情報資源を合わせたシームレスな探索に対応できなくなっている。また、電子情報資源の保存についてもその主体をどこにおくか等検討すべき課題が多い。

これらの問題に対応するため、情報を発見し利用を促進するためのディスカバリーサービスや統合検索等の導入や電子情報資源の保存を担保するためのアーカイブについて Portico や CLOCKSS などを含めて国内外の調査を行った。

III. 委員構成 (平成 24 年 4 月 1 日現在)

1. 学術情報委員会

- 佐野 充 (名古屋大学附属図書館長) (委員長)
- 新田 孝彦 (北海道大学附属図書館長)
- 吉田 孝 (北見工業大学附属図書館長)
- 関川 雅彦 (筑波大学附属図書館副館長)
- 加徳 健三 (一橋大学学術・図書部長)
- 井上 修 (東北大学附属図書館事務部長)
- 竹内 比呂也 (千葉大学附属図書館長)
- 木村 晴茂 (岐阜大学学術国際部長)
- 加藤 信哉 (名古屋大学附属図書館事務部長)

栃谷 泰文 (京都大学附属図書館事務部長)
相原 雪乃 (京都大学附属図書館情報サービス課長)
鈴木 秀樹 (国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長)
(事務)
高島 学 (名古屋大学附属図書館情報管理課長)

2. 学術情報システム検討小委員会

栃谷 泰文 (京都大学附属図書館事務部長) (委員長)
高橋 努 (東京大学附属図書館総務課長)
熊渕 智行 (国立情報学研究所学術基盤推進部 図書館連携・協力室長)
加藤 さつき (東京外国語大学学術情報課資料サービス係長)
小野 亘 (一橋大学学術情報部学術情報課主査)

3. GIF プロジェクトチーム

井上 修 (東北大学附属図書館事務部長) (主査)
相原 雪乃 (京都大学附属図書館情報サービス課長)
森 恭子 (東京大学大学院理学系研究科・理学部図書室)

4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム

関川 雅彦 (筑波大学附属図書館副館長)
竹内 比呂也 (千葉大学附属図書館長)
加藤 信哉 (名古屋大学附属図書館事務部長)